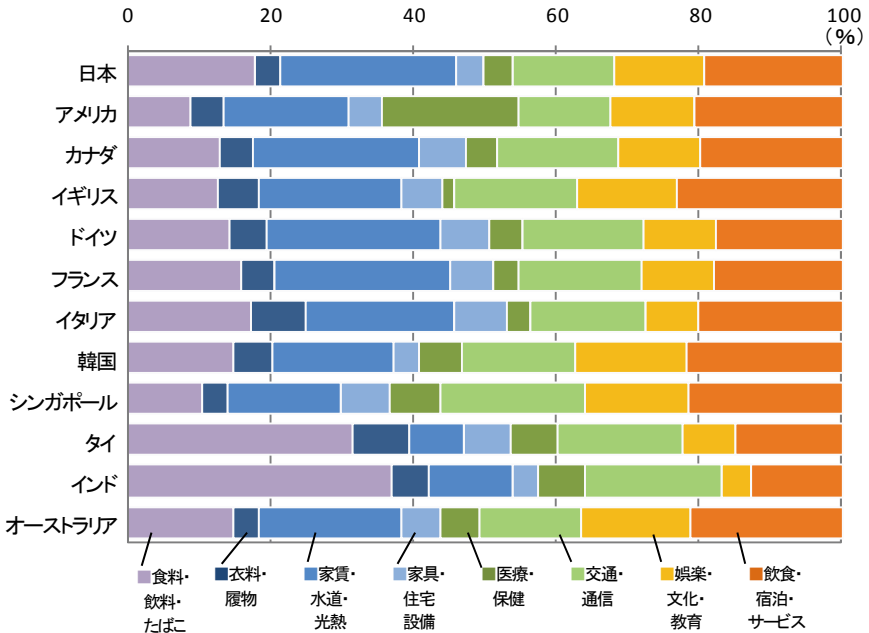


9-1 家計消費支出の構成（2007年）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第9-2-2表 国内家計最終消費支出の構成比(2007年)」(p.266)を参照。

(注) イギリス、タイ、インドは2005年、シンガポールは2006年、オーストラリアは2007年度の数値。

家計消費支出は、国内総支出の6割近くを占めているため、その国の国民生活や産業活動の実態を把握するのに参考となる指標である。特に消費支出に占める飲食費の割合(エンゲル係数)は、一般に所得レベルが高いほど低い値となることが知られており、実際、国内総生産(支出)額(USドル換算値)が高い国ほど低い割合になっていることがわかる。

日本のエンゲル係数は、1970年代では30%ほどだったのが、2007年では17.9%に低下している。これは、所得水準の向上や余暇時間の増大、消費の多様化等によって、住居関係費や教養・娯楽費等の割合が高くなってきているためである。この傾向は、いずれの先進諸国にも強く現れている。

先進諸国の「食料・飲料・たばこ」の占める割合は、10~20%前後と低いが、インド(37.1%)、タイ(31.5%)等の東南アジア諸国は高い。逆に、「家賃・光熱」に関しては先進諸国で高く、東南アジア諸国では低い。